

家計調査 平成25年(2013年) 1～3月期平均結果の概況

- 家計収支編(二人以上の世帯) -

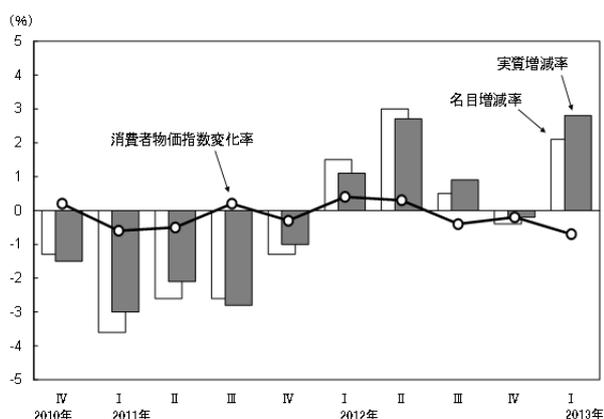
家計収支の概要

1 消費支出は2期ぶりの実質増加

2013年1～3月期の二人以上の世帯(平均世帯人員3.06人、世帯主の平均年齢57.8歳)の消費支出は、1世帯当たり1か月平均291,066円で、前年同期に比べ名目2.1%の増加、実質2.8%の増加となった。

最近の消費支出の動きを対前年同期増減率で見ると、2012年1～3月期以降3期連続で名目実質共に増加となった後、10～12月期に減少となったが、2013年1～3月期は再び名目実質共に増加となった(図1)。

図1 消費支出の対前年同期増減率の推移



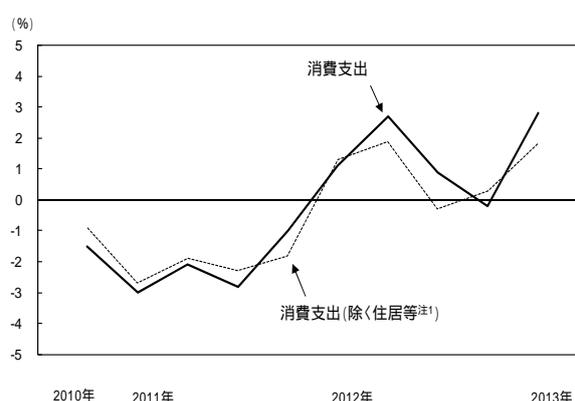
注) は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出(除く住居等^{注1})についてみると、2013年1～3月期は前年同期に比べ実質1.8%の増加となった(図2)。

注1)「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」No.4(下記URL)を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/pdf/point04.pdf>

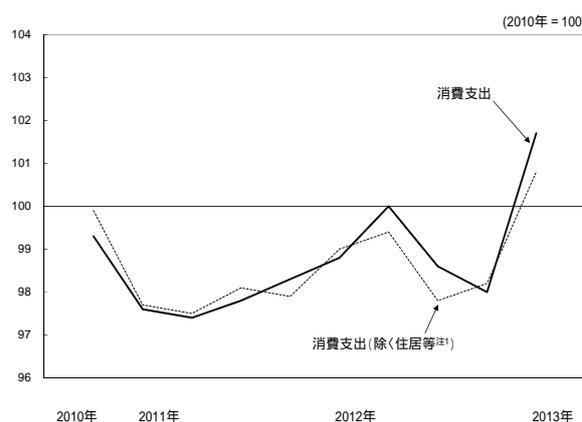
図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移



季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、2013年1～3月期は101.7となり、前期(98.0)に比べ実質3.8%の上昇となった。

また、消費支出(除く住居等^{注1})についてみると、2013年1～3月期は100.8となり、前期(98.2)に比べ実質2.6%の上昇となった(図3)。

図3 消費支出(季節調整済実質指数)の推移



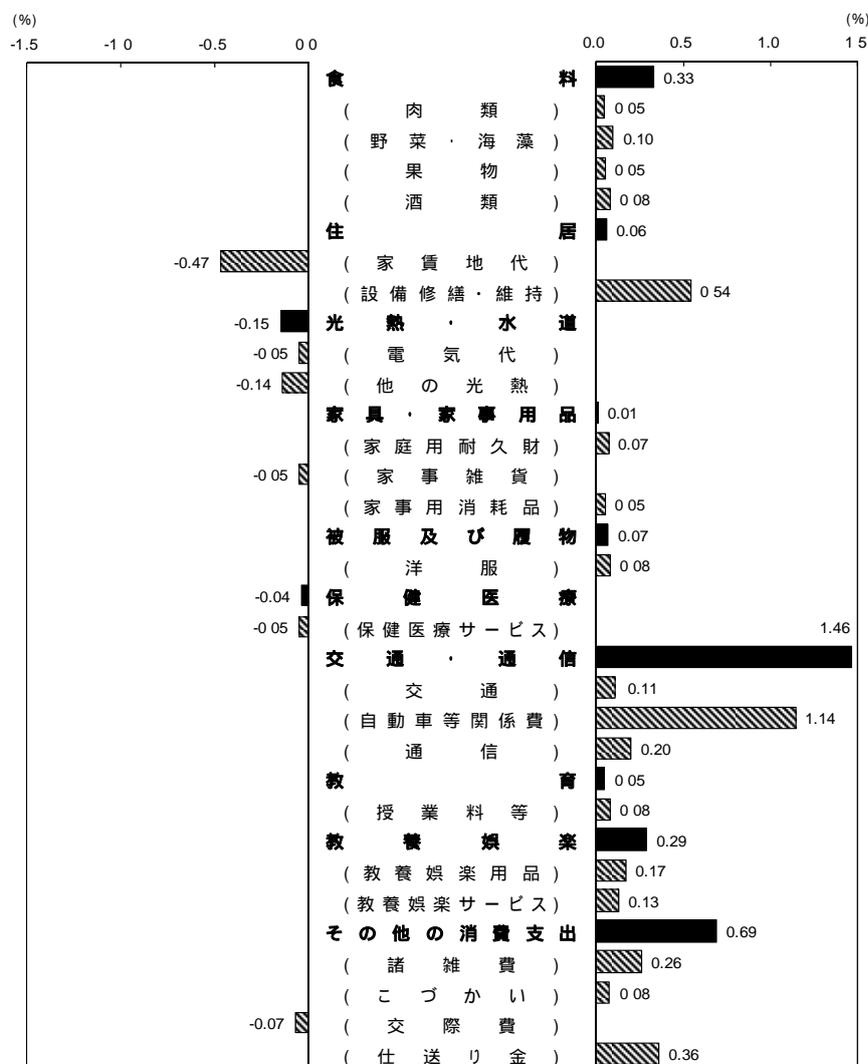
2 交通・通信、「その他の消費支出」、食料などが実質増加に寄与

2013年1～3月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を、増加及び減少に寄与した費目別にみると、自動車等関係費(1.14)通信(0.20)などを含む交通・通信(1.46)のほか、仕送り金(0.36)や諸雑費(0.26)を含む「その他の消費支出」(0.69)野菜・海藻(0.10)や酒類(0.08)を含む食料(0.33)が増加に寄与している。

また、教養娯楽用品(0.17)を含む教養娯楽(0.29)のほか、被服及び履物(0.07)住居(0.06)教育(0.05)及び家具・家事用品(0.01)も増加に寄与している。

一方、灯油などの「他の光熱」(-0.14)を含む光熱・水道(-0.15)保健医療(-0.04)は減少に寄与している(図4)。

図4 2013年1～3月期における消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度

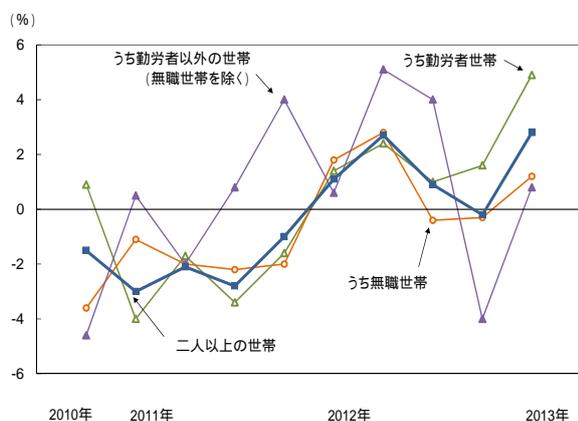


注) 1. 黒棒は10大費目を表す。
 2. 「その他の消費支出」、こづかい、交際費及び仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

3 全ての世帯区分において支出が増加

消費支出の実質増減率を、世帯区分（世帯主が会社、官公庁、工場などに勤めている「勤労者世帯」、商人、個人経営者、法人経営者などの「勤労者以外の世帯（無職世帯を除く）」、無職の「無職世帯」）別にみると、2013年1～3月期は、全ての世帯区分で、前年同期に比べ実質増加となっており、特に勤労者世帯の増加幅が最も大きくなった（図5）。

図5 消費支出の世帯区分別対前年同期実質増減率の推移



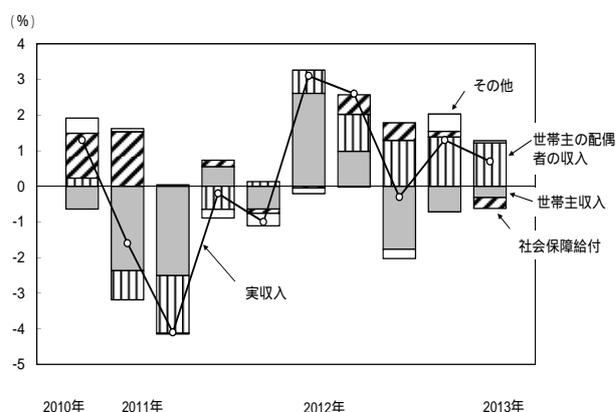
4 勤労者世帯の実収入は実質増加

二人以上の世帯のうち勤労者世帯の実収入の推移をみると、2013年1～3月期は、前年同期に比べ実質0.7%の増加となった。これを収入項目別（世帯主収入、世帯主の配偶者の収入、社会保障給付^{注2}、その他^{注3}）に実質増減率に対する寄与度をみると、世帯主の配偶者の収入及びその他が増加に寄与している。一方、世帯主収入及び社会保障給付は減少に寄与している（図6）。

注2) 主として厚生年金などの公的年金給付。勤労者世帯には、世帯主が勤めながら公的年金を受給している高齢者の世帯なども含まれている。

注3) 「実収入」から「世帯主収入」、「世帯主の配偶者の収入」及び「社会保障給付」の和を差し引いた。「他の世帯員収入」、「事業・内職収入」などが含まれる。

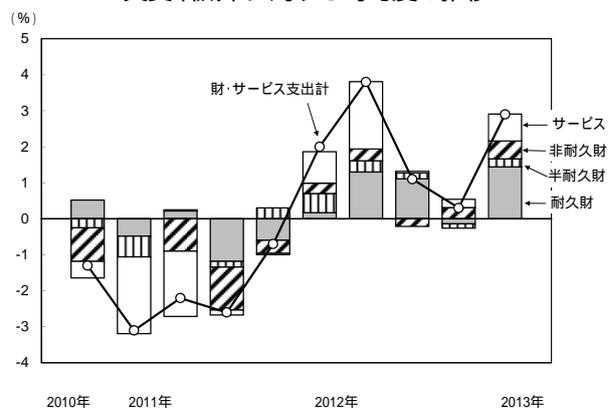
図6 実収入の対前年同期実質増減率に対する寄与度の推移



最近の家計消費の特徴

1 全ての財・サービス区分が実質増加に寄与
消費支出からこづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金を除いた支出金額（以下「財・サービス支出計」という。）の四半期ごとの推移をみると、2013年1～3月期は、前年同期に比べ実質2.9%の増加となり、2012年1～3月期以降5期連続の実質増加となった。これを四つの区分（耐久財、半耐久財、非耐久財及びサービス）別にみると、全ての区分が実質増加に寄与しており、寄与が高いものから順に、耐久財、サービス、非耐久財、半耐久財となった（図7）。

図7 財・サービス支出計の対前年同期実質増減率に対する寄与度の推移



注) 財・サービス区分別消費支出は、品目分類の結果から集計しており、財・サービス支出計には、こづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金は含まれていない。

2 耐久財への支出は2期ぶりの実質増加

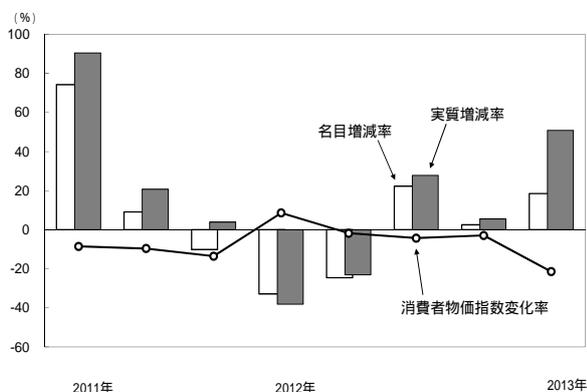
2013年1～3月期の耐久財への支出は、前年同期に比べ実質23.0%の増加となり、2012年7～9月期以来2期ぶりの実質増加となった。

耐久財の特徴的な品目の動きをみると、次のようになっている。

「他の冷暖房用器具」

空気清浄機などの「他の冷暖房用器具」は、インフルエンザの流行、花粉の大量飛散、「PM2.5」による大気汚染などへの懸念が広がったことで、空気清浄機への需要が高まったことなどもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質50.8%の増加となり、2012年7～9月期以降3期連続の実質増加となった（図8）。

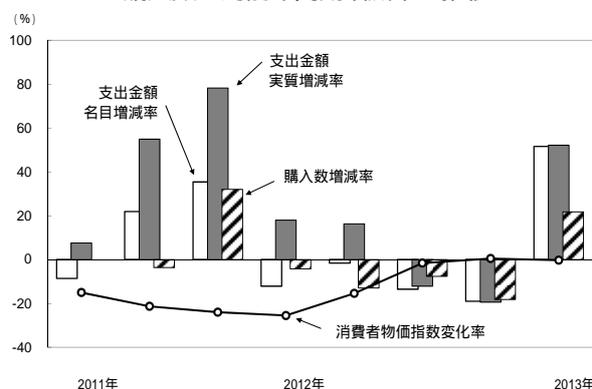
図8 「他の冷暖房用器具」の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



電気掃除機

電気掃除機は、サイクロン式への切替えやロボット型の需要などもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質52.1%の増加となり、2012年4～6月期以来3期ぶりの実質増加となった（図9）。

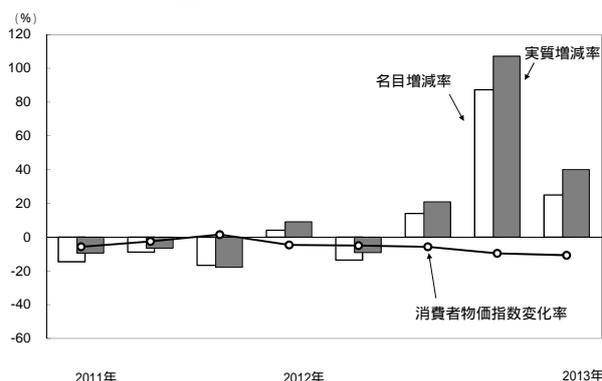
図9 電気掃除機の四半期別支出金額及び購入数の対前年同期増減率の推移



携帯電話

携帯電話は、スマートフォン（高機能携帯電話）への人気が高まっていることに加え、2012年秋に高速データ通信サービス対応のスマートフォンが相次いで発売されたことなどもあり、2012年10～12月期の支出金額は、前年同期に比べ大幅増加となった。続く2013年1～3月期も、増加幅は縮小したものの、実質40.0%の増加となり、2012年7～9月期以降3期連続の実質増加となっている（図10）。

図10 携帯電話の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



3 サービスへの支出は5期連続の実質増加

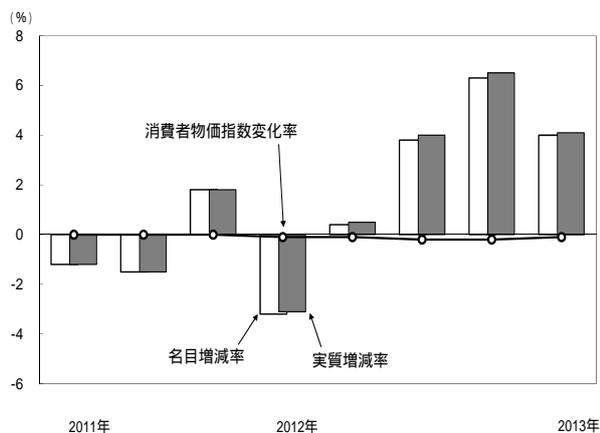
2013年1～3月期のサービスへの支出は、前年同期に比べ実質1.8%の増加となり、2012年1～3月期以降5期連続の実質増加となった。

サービスの特徴的な品目の動きをみると、次のようになっている。

携帯電話通信料

携帯電話通信料は、スマートフォン（高性能携帯電話）が普及したことなどもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質4.1%の増加となり、2012年4～6月期以降4期連続の実質増加となった（図11）。

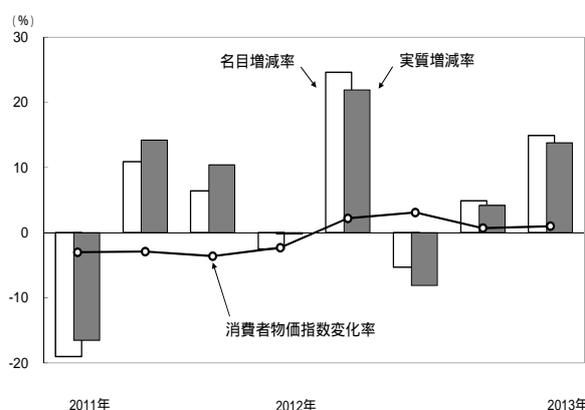
図11 携帯電話通信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



宿泊料

宿泊料は、年末年始の休日の日並びが良かったことや、景気回復への期待感による消費者マインドの改善などもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質13.8%の増加となり、2012年10～12月期以降2期連続の実質増加となった（図12）。

図12 宿泊料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

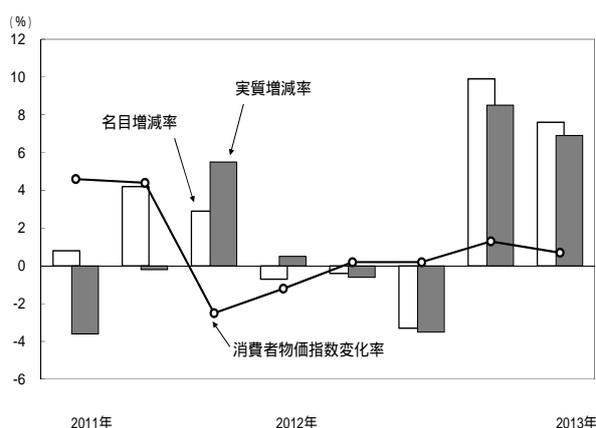


4 その他の注目される品目の動き

保健用消耗品

マスクなどの保健用消耗品は、インフルエンザ、花粉、「PM2.5」への対策として需要が高まったことなどもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質6.9%の増加となり、2012年10～12月期以降2期連続の実質増加となった（図13）。

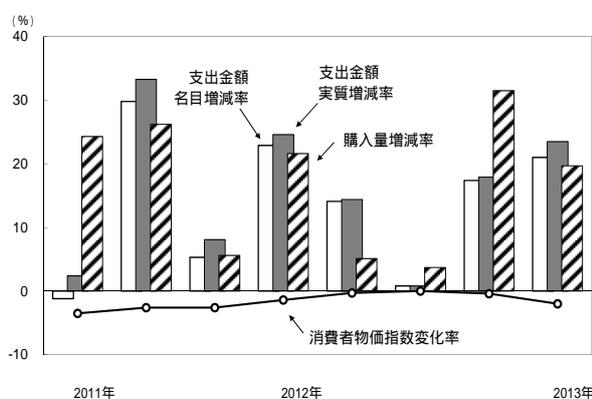
図13 保健用消耗品の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



ワイン

ワインは、ペットボトル入りワインなどの低価格商品の普及や、ワインへの人気が高まっていることなどもあり、2013年1～3月期の支出金額は、前年同期に比べ実質23.5%の増加となり、2011年1～3月期以降9期連続の実質増加となった(図14)。

図14 ワインの四半期別支出金額及び購入量の対前年同期増減率の推移

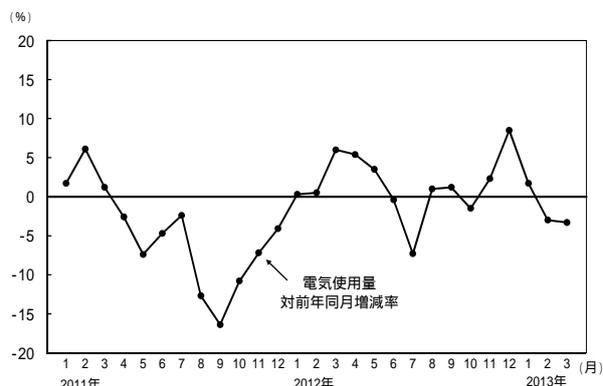


最近の家計をめぐる事象

1 電気使用量の推移

電気使用量の増減率の推移を月別にみると、2013年1月は、前年同月に比べ1.7%の増加、2月は3.0%の減少、3月は3.3%の減少となった。2012年12月及び2013年1月は例年に比べ気温が低かったことなどもあり、1月の電気使用量は増加となった(図15)。

図15 電気使用量の対前年同月増減率の推移

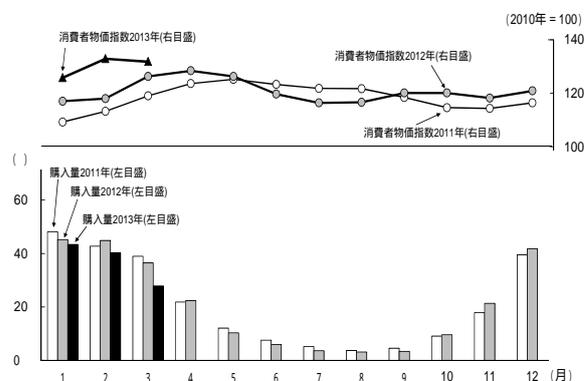


注) 家計調査では、電気代等の支払金額及び使用量については、請求やメーターの検針があった日ではなく、調査世帯が実際に支払った日(口座振替の場合は口座振替日)に家計簿に記入される。したがって、利用(購入)月と支払月に違いがあるため、月次の変化をみる際は注意が必要である。

2 灯油の購入量の推移

灯油の購入量の推移を月別にみると、円安により日本に輸入する原油の価格が上昇したこともあり、2013年1月は43.396、2月は40.249、3月は27.901と、前年、前々年の同じ月に比べ、全ての月で減少となった。特に3月は気温が高かった影響も重なり、前年同月に比べ23.6%の減少となった(図16)。

図16 灯油の月別購入量の推移



3 価格上昇・下落に伴う生鮮野菜の動き

2013年1～3月期は、天候の影響により、レタスやだいこんなど一部の生鮮野菜の価格が、1月は上昇し、2月下旬から下落していった。

この価格上昇・下落の影響があったと思われるレタス及びだいこんについて、購入量の推移を月別にみると、価格が上昇していた2013年1月は前年同月に比べ減少しており、価格が下がっていった2月及び3月は増加している（図17、18）。

図17 レタスの月別購入量の推移

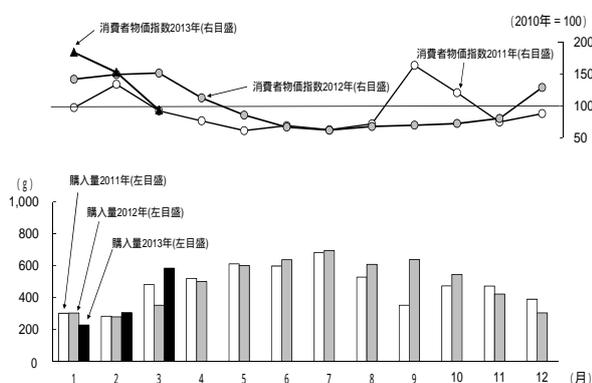
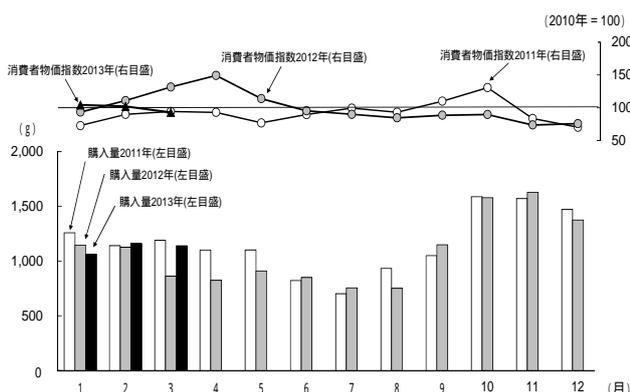


図18 だいこんの月別購入量の推移



4 値上げの発表により駆け込み需要があったと思われる品目

経済政策「アベノミクス」に伴う円安の影響などにより原材料が高騰していることもあり、食用油、魚介の缶詰、ティッシュペーパー、トイレトペーパーなどが4月以降値上げされることが各社から発表された。

値上げの発表により駆け込み需要があったと思われる主な品目について、2013年3月の結果をみると次の表のようになっている（表）。

表

4月以降の値上げの発表により駆け込み需要があったと思われる主な品目（2013年3月）

(%)	
品 目 名	支出金額 対前年同月 実質増減率
魚介の缶詰	22.3
食用油	12.1
ティッシュペーパー	21.7
トイレトペーパー	11.7